

○資料展示会

展示品 ①都甲文書四点 ②豊後国速見郡由布院御検地帳(田方、山崎村) ③天領日田の商人資料(③印、鍋屋の記録)一二点 ④津辞書関係資料四八点他 ⑤大分市勢家村駄原村明細地図(全)

○総会では、つぎの昭和四三年度事業報告がなされた。1、講演会、研究会の開催、2、機関誌の発刊(五〇号〜五三号) 3、豊後国村明細帳四の刊行、4、史蹟実地調査見学旅行の実施(大野川流域文化探勝) 5、大分合同新聞社主催伊勢神宮宝物帳に協力、6、その他

つぎに昭和四三年度、会計報告ならびに監査報告があり、それぞれ承認された。ついで同四四年度予算案と事業計画が審議された。印刷費等、諸物価の値上りにより、年会費五〇〇円を一、〇〇〇円に値上げする(ただし、四四年度は、明細帳を無料で差上げる)ことが上程され承認された。予算案は、年会費一、〇〇〇円、会費二五〇人、計二五〇万円を含む、総額五一万七、九〇〇円となった。

事業計画は、①、講演会、研究会の開催、②、機関誌「大分県地方史」(五四号〜五七号)続刊、③、「大分県地方史料双書」(「豊後国村明細帳」⑤)の続刊、④、実地調査見学の実施、⑤、美術博物館建設に協力、⑥、合同新聞宝物展に協力、⑦、文化財保護、庶民史料調査に協力、⑧、資料展示会、⑨、その他となっております。⑤では民俗

料室の設置を、会より要請することを議決した。(勝日記)

編輯後記

去る四十四年六月の本会総会後の反省会で、渡辺委員長が、本地方史もなるべく特輯号にしたいとの発言があった。たまたま今度発行の本地方史の編集担当順番が筆者と勝目分大助教授となっていたので、潜越とは思ったが独断で九月刊行予定の本号を、会の要望に添うべくキリンタン特集号とし、七月月上旬、キリンタンに関心を持つ人と思はれる各位に、無理とは思ったが七月末日までに原稿必着方を速達便でお願した。ところがこの失礼をもお怒りなく予期以上の原稿を得た。特にチースリック神父の七拾余枚を始め、松田毅一・岡本良知両先生旅先に居て依頼状をおくられて手にされた豊後キリンタンの開撰者、マリオ・マレガ神父等斯界の権威者各位の玉稿を得て、錦上花はなを添える光栄に浴し、且つ県内会員よりも多数の原稿を送られ、原稿多量で止むなく合併号とせざるを得ないうれしい悲鳴をあげた次第だ。然るに筆者運営の不手際から、五ヶ月後の今日漸く発行の運びとなったことは、御投稿下さった各位並に本地方史学会に対し、何とも申訳なき次第。只々平身低頭お詫びしてお赦しを乞うより外ありません。何とぞ

御海容の程伏してお願ひ申し上げます。それにつけてもかくも日時
余裕があるならば外にも御投稿下さる方もあつたし、また御稿下さ
た各位も推敲、加除訂正も出来、よりよい原稿となつたことと遺憾に
思はれ残念なものと存じます。このお詫びには他日「続キリシタン研
究」特輯号を再刊したいと考えています。勝手ながら今回はお赦しの
上其節はよろしく願ひます。

ともあれ本特輯号が大分県キリシタン史研究の一指針となることは
筆者の確信するところであります。ここに重ねて御投稿下さつた各位
に厚く感謝の意を表し、筆者の怠慢をお詫びして筆を擱く。(立川輝信)

昭和四十四年十二月二十日印刷
昭和四十五年 一月 一日発行

編集人

染 矢

多喜男

発行人

渡 辺

澄 夫

印刷人

高 井

久 雄

大分市上野町七番二十五号

三恵印刷株式会社

電話⑤〇一二三番

大分市旦ノ原

大分大学教育学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)